

平成29年度 学校評価報告書【島根県立盲学校】

※教職員評価の数値について:評価総数に占める肯定的な意見(評価A+B)の割合(%)・・・評価:A(十分に達成できた)、B(概ね達成できた)、C(あまり達成できなかった)、D(達成できなかった)、E(わからない)

重点目標	担当	学校評価実施項目		評価対象者	評価(%)	自己評価と次年度に向けた改善策	学校関係者評価
		各学部、分掌等の目標	評価指標				
授業力の向上 ○個別的教育的ニーズに応じた丁寧な指導(教育、理療)・支援の充実 ・自立活動の捉え、発達の捉え、見え方の捉え【専門性】 ・一人一人の進路の実現を見据えた指導(教育、理療)・支援【キャリア教育】 ・交流学習の充実、体験学習の充実【インクルーシブ教育システムの構築】	小中普	個々の児童生徒についての有効な指導・支援の在り方を学部全体で検討し専門性の向上を図る。	学部会、個別の指導計画検討会、学部研修会、授業公開を実施し、有効な指導・支援方法について学部全体で検討・情報交換をした。	全員	87.8	学部研修会、個計の検討会、授業公開等を通して専門性の向上を図った。次年度に向けては、学習担当者がチームとしてより高い教育実践をしていけるように、個計検討会のもち方を変える。また、学部の研究テーマを設け、学部としての実践力の向上を図りたい。	1. 授業力の向上について 校内で、一人1授業を公開するなどして授業力の向上に努めた。また専門性の向上だけでなく、専門性の継承にも繋がったと思われる。
	理療科	年2回の理療教科研修会、年7回の公開授業を通して、生徒の実態に応じた学習環境の整備、指導・支援の充実を図る。	生徒の実態に応じた学習環境の整備、指導・支援の充実を図るため、年2回の理療教科研修会、年7回の公開授業を実施した。	全員	89.8	生徒の実態に応じて、教室の机の配置や視覚補助具等を整備した。理療教科研修会では実技や検査法の確認を行い、公開授業では、生徒の実態から適切な環境づくりや指導方法について協議を深めた。来年度も理療教科研修会や公開授業を通して授業力の向上をはかる。	
	地域支援部	相談対象者の実態とニーズを的確に把握し、それに基づいた相談や支援活動を行う。	相談対象者の実態とニーズを的確に把握し、適切な支援方法を検討して相談活動にいかすために、相談の会を実施した。	地域支援部のみ	72.7	相談の会の開催回数が少なかった。次年度では、適切な支援方法を検討して相談活動にいかすために重要であり、研鑽の機会でもあるという意識を持ち、相談の会が定期的に開催できるよう日程調整を行う。	
	教務部	個別の指導計画の効果的な活用の推進	個別の指導計画について協議・情報交換をする場を設け、授業や生徒指導に役立てた。	授業のある教員	89.7	単一と重複の児童生徒、学齢期と社会人経験のある児童生徒では、個別の指導計画の記載内容の視点が異なっており、活用方法の違いがあるが、協議・情報交換の場で活用できた。今年度から改訂し、重複する記載内容も減り、使いやすくなったのではないかと考える。改訂を加えながら活用していきたい。	
	研究部	授業を公開し、学習のねらい・指導支援の方法・工夫を共有し、授業力の向上を図る。	校内研究の研究主題に基づいて、全教員が授業を年1回以上は公開した。	全員	86.3	お互いに授業を見て学び合う機会を提供することが第一に重要なことなので、先生方が1授業公開してくださったことに意味があると思う。感想シートの提出が少なく、今後の授業に還元できないという意見を多くいただいたが、それに関しては各自で案内するときに宣伝してもらうことや研究部員が言葉がけをするを行いたい。	
寮務部	児童・生徒の実態に応じた生活支援ができるよう、研修を企画、実施する。	実態に応じた生活支援に関する研修や学校内外の講師を招いての研修会を実施した。	寮務部のみ	100.0	寄宿舎研修を通して、生活の状況を共通理解し、具体的な支援方法を研修することができた、今後も継続していきたい。		
発信力の向上 ○打って出て行く盲学校、選択される盲学校 ・動いて示す情報提供、文字にして示す情報提供	小中普	自立を促すと共に、他者とより良く関わり合うことのできる力、進んで社会参加をする意欲や能力の育成を図る。	児童生徒の実態や将来像に合わせたキャリア教育の視点を持ち、進路学習、生活の力を高める実践をした。	全員	84.3	職場体験・実習、学校見学等、進路指導部と連携をして児童生徒個々に合わせて行うことができた。また、現場実習に向けてケース会を行ったことは、多角的な視点での指導、情報共有のために有益であった。本年度の取り組み積み上げていきたい。	2. 発信力の向上について マスコミでの宣伝活動、チラシ配布、作品展、理解啓発活動等を実施し、盲学校や視覚障がいについて多くを発信した。また医療機関との連携も行われ、盲学校について多くのことが発信された。また、地域の方を対象としたあん摩体験会は、盲学校の理療科について発信することができた。来年度も実施して欲しい。
	理療科	理療教育の理解・啓発を図るため、学習活動内容を積極的に発信するとともに、地域交流あん摩体験会を実施する。	緊急対応学習、校外臨床実習、コミュニケーション学習等の様子を玄関前掲示・HPで発信し、地域交流あん摩体験会を実施した。	全員	92.2	理療科の活動の様子を校外に発信することができた。来年度は、活動の様子を保護者にも発信していきたい。	
	地域支援部	さまざまな連携の機会をいかに、本校の教育および視覚障がい児者への支援についての理解啓発を図る。	オープンスクールを2回実施し、視覚障がいのある方やその家族、教育・保育関係者、行政、医療関係者等に、本校の教育および視覚障がい児者への支援についての情報を提供した。	全員	96.1	これまで以上にオープンスクール開催についての周知努力を行った。次年度は年度当初から取り組みをスタートさせ、より周知を図っていく。さまざまな研修会などの機会を捉え、本校の教育および視覚障がい児者への支援についての理解啓発を図る。	
	総務部	学部や他の分掌等と連携し、学校行事およびその他の活動を速やかにホームページに掲載する。	学園祭、体育祭等の告知や、活動内容の報告など、ホームページを更新する頻度が昨年度に比べて倍増した。	全員	80.4	昨年度に比べ大幅に更新回数を増やし、活動等をPRすることができた。次年度も引き続きHPの更新を積極的に行う予定である。	
	総務部	関係機関と連携して、松江市以外での児童生徒作品展や視覚障がい教育の理解啓発活動を実施する。	県西部で児童生徒の作品展および理解啓発展示を行った。	全員	88.2	予定どおり県西部での理解啓発活動を行うことができた。次年度も西部での理解啓発活動を引き続き行い、またこれまで理解啓発活動を行っていない地域についても検討する。	
	教務部	ニーズに応じた教具・教材の整備・管理	教材・教具の点検、修理のアンケートを実施した。ニーズに応じた物品の貸し出しや、相談、修理、補修を行った。	全員	78.4	アンケートの取り方を工夫していきたい。ニーズとサービスを明確にし、次年度も継続して、必要なものを提供していきたい。	
	研究部	学校主催の視覚障がいに関する研修会について弱視学級や県内の特別支援学校に周知し、情報発信と共に専門性を高める場の提供に努める。	視覚障がいに関する研修会、研究会を年2回実施し、弱視学級や特別支援学校へ情報発信するとともに専門性向上の機会を提供した。	全員	94.1	来年度の研究大会開催に向けて、指導助言の先生を招いての研究協議や講演会を実施でき、他学部の取り組みの様子や他校の取り組みの状況も知ることができた。今後も引き続き続けていきたい。	
	進路指導部	進路開拓パンフレットを作成・活用することで、事業所(福祉サービス事業所を含む)などに情報を提供することで、本校の理解を進めたり、進路開拓を進めたりする。	本校の理解啓発を行ったり、体験先・就職先の開拓を行ったりするために進路開拓パンフレットを作成し、活用した。	全員	84.3	進路開拓パンフレットを活用し、本校の理解啓発および実習先や就職先を開拓したことで、職場体験先・現場実習先・就職先の拡がりがあった。次年度も、必要に応じて加筆修正して作成し、活用していきたい。	
	生徒指導部	行事の内容や情報発信の方法を見直し、地域や関係機関に盲学校を知ってもらい、交流できる機会を設ける。	体育祭・学園祭のチラシを児童生徒が近隣園・校の園児や生徒等に直接渡した。また教職員各自が、同様に周辺の方に情報発信を行った。	全員	90.2	発信力の向上という点では、ある程度目標は達成された。今後は、体育祭の種目や学園祭のコーナー活動等に来校者がより参加しやすく、交流できる場を提供していきたい。	
	寮務部	寄宿舎掲示板、寄宿舎だより「ライト」を活用して寄宿舎の取り組みの発進力の向上に努める。	寄宿舎行事やその他の活動等、ホットな情報を発信するため、随時、寄宿舎掲示板を更新した。	全員	80.4	掲示板では寄宿舎での活動の様子を随時発信できた。今後は専向研等も活用して発信力の向上に努めたい。	
チーム力の向上 ○情報を共有し合い、信頼し合える職場 ・チームで支援する、チームで対応する、チームで解決する ・学部間での情報共有	理療科	個別の指導計画の検討、ケース会議、理療科会、拡大理療科会を通して、生徒の実態や支援のあり方、学習の活動内容等の共通理解を図り、チームとして迅速な対応が行えるようにする。	チームとして迅速に対応するため、生徒の学習・健康・生徒指導に関する状況を、速やかに理療科朝礼で共有し、必要に応じてケース会を開催したり、理療科会で統一した支援のあり方について確認したりしながら、他部署との連携を図った。	理療科のみ	94.7	理療科朝礼では、迅速に生徒の様子についての情報共有を行ったが、理療科会では、指導内容について、さらに十分な時間をかけて協議する必要がある。日頃の連絡・報告を密にすることや、会のもち方を検討することで、共通理解の下で指導支援を行えるようにしていく。	3. チーム力の向上について 相談件数が大幅に増加し、相談担当者での対応が困難になる中、各学部と協力してチームで相談業務を担当するなどして、チーム力の向上が図られたと思われる。
	地域支援部	校内および関係機関と協働し、それぞれの専門性や機能をいかした相談や支援活動を推進する。	校内の教員の専門性をいかした教育相談を行うために、他学部の教員が同行する教育相談活動を実施した。	地域支援部のみ	100.0	他学部の教員が同行する教育相談活動を13回ほど実施した。次年度は同行する教員の授業等の調整が取りやすいよう、早い時期に教育相談の計画が提示できるようにしていく。	
	研究部	視覚障がい教育に関する校内研修を計画・実施し、年間4回のグループ研究及び年2回の全体研究会で協議を深め、学校全体で研究主題に取り組み、専門性の向上を図る。	校内研究のためのグループ研を年4回、全体会を年2回実施した。	全員	92.2	専向研については今年度はステップアップした講座を設定し、経験者も新たな学びにつながる場を提供できた。一方でグループ研についてはより児童生徒の実態に即したのものになるよう、各学部でテーマを設けるなどして授業改善に取り組みるとよい。	
	進路指導部	進路に関する研修会を開催したり進路だよりを作成したりするなど情報発信することで、全教職員が本校の進路に関する共通認識をもち、進路指導を推進する。	本校の進路状況の共通認識を持つために専向研を実施したり、進路便りを月1回発行した。	全員	96.1	専向研において本校の進路状況やアフターの状況、つきたい力などの課題を知ってもらうことで共通認識をもつことができたのではないかと考える。共通認識をもった後の取組をどう展開するのか、今後の取組につなげていきたい。進路便りも今後も継続していきたい。	
	生徒指導部	面談の実施や意見箱の活用を通して児童生徒理解に努め、必要に応じて他分掌との連携を図りながら支援を行う。	児童生徒の学校生活に関する実態を把握し、関係部署と情報を共有するために、学校生活アンケート及び児童生徒面談を実施した。	全員	86.3	当初計画していたアンケートや面談の実施時期が遅れた。来年度は、アンケート内容の見直しを行い、いじめ防止委員会と連携して進めていく。	
	保健部	保護者、医療機関、担任等と情報を共有しながら健康管理を行い、児童生徒が安心して学校生活を送れるように支援する。	保護者、医療機関、担任等との情報共有をしやすくするために、個々の保健ファイル、緊急持ち出しファイルを整理した。	保健部のみ	81.8	児童生徒一人一人の健康状況などを共有しやすいように個々の保健ファイルの整理をした。また、緊急体制訓練に合わせて、緊急持ち出しファイルの整理も行った。次年度に向けては、緊急連絡先や疾病などの一覧表の作成を検討していく。	
	保健部	校内や関係機関との連絡・調整を図りながら、児童生徒の健康や安全に関する活動や校内体制の見直しを行う。	生徒指導部と連携し体育祭安全対策の会で校内緊急体制のマニュアルの確認をしたり、緊急時の対応を全職員で確認するために、応急手当講習や緊急体制訓練などの校内研修を実施した。	全員	94.1	生徒指導部と連携し、体育祭前の安全対策の会に合わせて校内緊急体制のマニュアルを確認できたことはよかった。緊急体制訓練は9月に実施したが、全職員の意識を高め緊急時の備えをするためにも、年度の早い時期の計画が望ましい。	
	寮務部	小中普、理療科との連携を図りながら、個別の生活支援計画を活用する。	個別の生活支援計画をもとに小中普、理療科と連携し、舎生の日々の状況を確認した。	全員	82.4	学部会で周知を図り、支援計画を活用して支援をすることができた。また、学担との連絡会をし、保護者懇談にも参加し、学校と家庭と共通認識を持って支援をすることができた。今後も継続していきたい。	
	事務部	経費削減意識を高めながら、一方で校内の安全や教職員の健康を考慮し、快適な職場環境のために適切な予算執行を行う。	経費削減意識を高め、適切な予算執行を行った。	全員	94.1	予算にシーリングがかかる中、緊急性のあるもの、必要性のあるものに優先順位を付けて対応した。今年度は、教室の照明改修、応接室・休養室改修、屋内運動場暗幕張り替え、食堂手洗い温水化等を実施することが出来た。次年度も、限られた予算の中で、現場の緊急性・必要性を考慮しながら適正に対応したい。	
	事務部	学校の窓口として、外来者への受付業務、電話対応など、心配りのある対応を行う。	外来者への受付業務、電話対応など、心配りのある対応を行った。	事務部のみ	84.6	電話対応や受付窓口での業務は、学校の第一印象を決める重要なものであり、県民にとっては学校全体の評価に関わることであるので、このことを十分に認識し、相手の立場に立った丁寧な対応を心がけた。今後も相手に好感を持たれる対応を行いたい。	